

平成20年度 博士後期課程学位論文要旨

<学位論文題名>

基本バランス能力テストの考案と信頼性・妥当性・臨床的有用性の検討

<要旨>

バランス能力は身体運動における基本的な要素であり、理学療法評価の中でも重要な検査項目となっている。そのため、これまでに多くのバランス能力評価指標が考案され、日本においてもファンクショナルリーチ、Timed Up & Go test、Berg balance scale などが臨床や研究の場で使用されている。しかし、これらの評価指標は臨床的有用性の観点からは不十分な面があり、より臨床的有用性のあるバランス能力評価指標の開発の余地が残されている。本研究では、バランス能力を包括的に把握でき、多くの疾患患者を対象とするパフォーマンスに基づく臨床的なバランス能力評価指標を開発し、その妥当性、再現性および臨床的有用性について検討することを目的とした。

新たにバランス能力テストを作成するために、理学療法士を対象としたバランス能力評価指標に関するアンケート調査を実施し、バランス能力テスト作成の資料とした。基本バランス能力テストは、バランス能力の構造を考慮し、端座位における姿勢保持と重心移動、立位における姿勢保持・重心移動・ステップ動作、および立ち上がり動作を検査課題とした。検査項目は25項目とし、各項目を不可：0点、不安定：1点、安定：2点で評定し、合計で50点満点とした。検査対象者総数は種々の疾患によりバランス能力低下を呈する患者122名であった。信頼性は理学療法士20名が3ヵ月において2回測定を実施し、検査項目の評定の一致度を調査した。妥当性はBerg balance scaleとの相関により検討した。有用性は基本バランス能力テストの測定に要する時間、歩行能力との対応関係より検討した。

再評価の各検査項目の一致率は平均で $81.6 \pm 10.9\%$ 、Berg balance scaleとの相関は $r = 0.88$ ($p < 0.01$)、測定時間は平均で 8.6 ± 5.2 分であった。基本バランス能力テストの合計点は対象者の歩行能力に従って推移し、合計点25点付近が屋内歩行自立のカットオフ値として推定できた。以上の結果、考案した基本バランス能力テストは臨床的なバランス能力評価指標として有用と考えられた。

学位の種類： 博士（理学療法学）

人間健康科学研究科 博士後期課程 人間健康科学専攻 理学療法科学系

学修番号 06995605

氏名： 望月 久

(指導教員名： 金子 誠喜 教授)

注：1,000字程度（欧文の場合300ワード程度）で、本様式1枚（A4版）に収めること